令和　8　年度

1　自己評価及び外部評価結果

事業所名　：　　グループホーム　ぽっかぽっかの家

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0372500447		
法人名	社会福祉法人 やまどり福祉会		
事業所名	グループホーム　ぽっかぽっかの家		
所在地	〒029-4501　岩手県金ヶ崎町六原坊主屋敷36番地3		
自己評価作成日	令和8年6月15日	評価結果市町村受理日	令和8年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871　岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

やまどり福祉会共通の「笑顔溢れる家」「心豊かな生活」「まごころ」の法人理念を念頭に利用者の施設での暮らしがより良いものとなるよう、職員には積極的に研修の機会を設け知識や技術の習得に励んでもらっています。そのためのシフトや勤務の調整等、事業者側での努力も行っています。外部のみでなく職員会議等を通し、内部での研修や勉強の機会も設けています。利用者の体調管理等にも気を付けており、日々の生活の中でいつもと変わった様子がないか観察し、気になる時は施設の看護師に報告するなどして嘱託医との連携を図っております。ご家族との関わりにも配慮し、施設行事がある時等は声を掛け参加して頂いております。また、ご家族希望の外出や外泊なども感染症等の状況を見ながら希望に沿って対応しております。これからもご家族、運営推進会議等、地域の皆様の意見・ご意向を事業の運営に反映し、取り組んで参りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、森林や田畑に囲まれた環境の良い場所に立地し、同一敷地には、同法人の特別養護老人ホームが併設されており、消防訓練や敬老会などを共同開催するほか、同施設の看護師による助言、指導を受けるなど連携を図っている。運営にあたっては、法人の理念のもと、施設支援方針を職員間で共有し、利用者一人ひとりの個性を大切に、安心して暮らせるようきめ細かなサービスを提供している。また、運営推進会議の提言や助言受け、利用者の健康対策、イベントの実施、地域との交流など、業務の運営に反映させている。さらに、職員会議や7つの各員会の提案、職員の申し出を受け、行事や施設の整備、労働条件の改善など、業務運営と介護サービスの充実に活かしている。なお、感染症対策で行動が制限されるなか、小学生の来所、鬼剣舞の訪問や地域の団体の歌や踊りを受け入れるほか、ボランティアによる菜園の手入れなど、地域との交流に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 ８ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念理念や事業目標について、年度初めの会議や申し送りの中で確認し、職員間で共有している。利用者一人ひとりの生活歴や思いを尊重し、画一的な支援にならないように意識してケアに取り組んでいる。やまどり福祉会共通理念を、各自職員手帳に持ち、職員会議等で話し合う際、関わり方に迷った時は、その職員手帳をもとに理念の実践に繋がるよう繰り返し確認している。また、ぽっかぽっかの家独自の年間目標を理念のもとに掲げ目標に沿い実践に繋げている。	法人の理念や施設支援方針、年度目標を、年度当初の理事長の話や年2回の内部研修のほか、職員会議、職員手帳への記載などを通じて、職員間で共有し、24時間シートなどを活用しながら、年間重点目標を前期・後期と分けて整理しており、利用者一人ひとりのペースを大切に、安心して暮らせるようきめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事への参加や近隣住民との挨拶を日常的に行い、地域の一員としての関りを大切にしている。その際「天気が良くて良かったですね、今日はどちらまで行かれるのですか。」などと地域の方からの声がけもある。利用者やご家族等の意向をお伺いしながら、地域にある産直やお店等への外出、コンサート観賞も行った。学校や保育園の子供達による訪問等、地域の方々との交流も行っている。	小学生による歌や作品のプレゼント、鬼剣舞の訪問、北上幸の会の歌や踊りなど、地域住民との交流を行うほか、ボランティアによる菜園の手入れ、演歌歌手の慰問なども受け入れている。さらに、3ヵ月ごと法人発行の機関紙に、グループホームの活動状況を記載し、地域にお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2か月に1回の頻度で運営推進会議を開催し、利用者の動向を報告している。グループホームならではの支援の難しい所、留意が必要な点等について協議し、職員の意識の持ちようや教育が重要である事等についても話し合っている。また、町の介護相談員が月に一度の頻度で来所されている。毎月の様子をお手紙やお達者だよりでを配布していることで、ご家族にも事業所での生活の様子について理解していただき、協力や支援につながっている。慰問等の行事に参加し、交流することでも認知症の方々への理解につながっている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議開催時に、運営状況に対する意見を求め質疑・応答の機会を設けている。生活状況や行事の取り組みなどを報告し家族委員から「うちに居た時よりも話をするようになって良かったです。」との声をいただき、いただいた意見は議事録に記載し、運営に反映できるよう努めている。質問には理解いただけるよう丁寧に説明している。会議の場も地域とのつながりを再確認する機会としても大切にしている。また、本年度より会議の開催場所をぽっかぽっかの家に移し委員の皆様に直に施設内や利用者の様子を見ていただくことにした。	2ヵ月に一回会議を開催し、利用者の状況、イベントの様子、事故などの発生報告などを行っている。運営推進会議で提案のあった、口腔ケア、脳貧血、病院等への連絡方法などの健康対策、利用者の趣味、ゲーム、体操などの実施、イベントの開催のほか、豪雨への防災対策など、業務の改善や充実に活かしている。会議の議事録は、参加出来なかった職員も含めて全職員に回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業を進めていくうえで分からない事や判断に迷うような時は、町の担当者様に連絡し確認しながら行うようにしており、協力関係を築いていただけるよう努めている。町の運営推進委員の会議への出席を通し、当施設の動向や取り組みを説明し、意見をいただいている。	町の行政情報は、メールにより入手しているほか、防災情報は、防災ラジオで受けている。介護認定申請、利用者の住所変更、実家の処分など、利用者や家族の相談ごとへの助言、指導を受けている。また、町の認知症支援センターに委員として、職員を派遣している。介護相談員の来所、民生委員の施設見学に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束防止指針を作成し、職員手帳に明記している。施設内研修も行っている。身体拘束防止委員会等で現状確認し、具体的な事例検討を行い部署の勉強会等で周知し、職員全体で理解を深めている。利用者の不安や行動の背景を考えながら、声掛や環境を工夫し、安全に過ごせる支援に努めている。	身体拘束と虐待委員会を合同で3ヵ月に1回開催し、協議内容を職員に周知している。職員研修は年4回開催し、スピーチロックや権利擁護など、テーマや職員による講師もその都度変え、知識や対応方法を修得し、日々の介護サービスに活かしている。身体拘束の事例は無く、離床確認で、赤外線センサーを5人の居室に設置している。玄関は、防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修や日頃の振り返りを通して、不適切なケアの防止に努めている。研修で学んだ事を、受講した職員が資料を元に講師となり勉強会等を行っている。具体的にどのような事が虐待にあたるのかを学び、注意喚起している。日常のケアの中で気になる言葉遣いにも注意し、職員会議、申し送りで目上の方への尊敬の念を意識するように努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については認知度や周知が不十分に思う。研修や話し合いの機会を増やし、理解度を上げていく必要がある。個々の利用者に合った支援について具体的に理解し、自立支援につなげるための勉強機会が必要と思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前後には十分な説明を行い、不安や疑問点などを伺いながら丁寧に説明し了承をいただいている。契約時、解約時、退居時においても説明し、理解をいただくよう努めている。規約や料金改定時は、文書で配布すると共に説明を行い同意書に署名いただく等して了承を得て安心につなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族来訪時や電話連絡時に意見や要望を伺い、玄関に意見箱を置いている。利用料の支払いや面会時等には利用者の様子を伝え、情報共有しながらご家族からの疑問にお答えし説明している。電話でも密に連絡し、ご家族との良好な関係を築けるよう努めている。運営推進会議の意見を取り入れ、広報をご家族ばかりでなく地域配布し、またご家族様へ居室担当からのお達者だより(お手紙)を作成し事業所での生活の様子についてお伝えしている。また、年間行事でもご家族と利用者のお食事会を通して意見や質問をいただいている。	3ヵ月ごと発行のお便りや毎月居室担当作成のお知らせにより、利用者の生活状況を家族に知らせるほか、面会時や通院同伴の際に、家族からの意見や要望を聴き取り、職員による利用者への声掛け、利用者の菜園での草取り、外出、身体運動の実施のほか、預かり金での利用者の希望の缶詰、果物を購入している。なお、職員からの誘いで編み物などの趣味も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常業務や職員の就業に関する事などは、気軽に話しあえるようにしている。管理者は代表や事務に伝え、話し合いを行ったり、職員会議やミーティング、業務日誌等を活用しながら周知を図っている。意見や要望を把握し、回覧等も活用している。毎月隣接の特養にて各部署担当者、代表や事務職員等が参加し、フロア会議開催している。その結果を部署の職員に報告し、意見交換している。	毎月職員会議を開催し、提案や要望を受けるほか、7委員会の提案を受け、日常の業務やイベントの開催、エアコンの更新、乾燥機の導入など、施設の整備を行っている。また、年1回管理者が個人面談を実施し、希望や業務への意見を聴いている。働きやすい環境整備のため、夜間のシフト調整などの勤務体制の変更や、賞与、手当て等の充実を図った。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の疑問や要望、意見等を聞く機会はあり、資格取得に対する費用負担への支援や研修等への参加を勧めている。研修修了後や資格取得後は、人事考課(昇給や手当)に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々の経験や資格、研修参加の有無を把握している。ケアの実際や能力を鑑みながら勉強会等を開催し、苦手分野の克服に取り組んでいる。機会がある時は、積極的に外部研修への参加も促し認知症ケアや事故防止について学び申し送りや会議の中で共有している。施設内研修の充実を図り、シフトの調整も行っており、経験の浅い職員にはその都度声掛けをしながら、安心して業務に取り組めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ユニットケアの研修会等、学びの場に積極的に職員を参加させ認知症ケアや感染対策についても意見交換を行い、自事業所での支援の見直しにもつなげている。同業者、行政の認知症初期集中支援チーム検討委員会へ参加している。学んだ内容は職員間で共有し、日々のケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前後には事前調査や本人、ご家族との面談をし、他事業所からの情報を収集して、意向を伺っている。また初期段階では本人の不安や緊張に配慮し、無理に関りを急がず、安心して過ごせる関係づくりを心掛けている。「ここは静かでいいね」「まだ慣れないね」等の声も聞かれており、その時の気持ちを大切にしながら支援を行っている。入居後は職員全員の十分な観察と、情報の収集や共有を図り、優しい言葉掛けや傾聴を行い、本人との日々の会話を通して信頼関係作りに努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時には家族の不安や希望を丁寧記聞き取り、これまでの生活歴や本人の思いについて共有していただいている。ご家族からの疑問や意向、心配な点についてもお答えしている。通院の付き添いや面会で来所された時は、事業所での暮らし振りについてお話しし、また些細な変化にも早めに報告するなど、相談しやすい関係づくりを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前情報、入居後の本人の様子から職員や多職種との連携を図り、意見交換している。入居当初は環境の変化による不安が大きいため、本人の表情や生活状況を見ながら関わり方を調整している。家族からの情報も参考にしながら、 日々の会話を通して信頼関係の構築に努めている。深く知るために居室担当等からご家族へ連絡や報告を行い、優先項目を見極め援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が一方的に支援するのではなく、日常生活を共にしながら関係づくりに努めている。おかずの盛り付け、洗濯干しや洗濯物をたたむなど、本人が自ら積極的にできる事を見付け、その能力を活かせる環境作りを行いながら行事や活動の支援をしている。洗濯たたみの場面では「まだあるの。いっぱい持ってきていいよ」と笑顔で話される場面もあり、本人のできる事を大切にし、日々の会話や家事を通して安心して過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とのつながりを大切にし、面会や電話連絡を通して日々の様子を共有し、希望を確認している。また、本人と家族が外出したり、行事に参加していただける機会をこまめに設けている。年3回月配布している広報や、毎月差し上げているお達者便り(お手紙)でも写真を載せて施設での暮らしぶりが伝わるよう努めている。受診対応ではご家族の協力を得ながら、安心して生活を継続できるようにしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族には面会や外出、外泊の希望にも応じられることを伝えており、通院等も含め定期的に施設にお越しいただいている。毎月の理髪や月2回の嘱託医の回診等も、馴染みの関係作りに役立っている。また、馴染みの場所へ外出するなど以前の生活域を意識する事で、不安軽減や安心感につながるよう支援している。	地域の敬老会には参加していないが、町から記念品が届いている。利用者の意向に沿い、馴染みのスーパーや洋品店に出かけているほか、近くの神社へ初詣に出かけたり、家族との墓参り、自宅訪問、外泊よる温泉入浴などに出かける利用者もいる。幼稚園や小学校、また鬼剣舞などのボランティアとの繋がりを大切にし、理容師や嘱託医など、安心できる関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日頃の利用者間の関わりの様子を観察しながら、利用者の性格や特徴の把握に努め、家事や余暇活動等に参加いただいている。また、利用者同士が自然に関りが持てるよう、食事やレクリエーション時の雰囲気づくりを行っている。利用者同士の相性や体調に配慮しながら、交流できる環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居や退居等の契約終了後も、他事業所の職員やご家族の相談に乗り、助言を行っている。医療機関や次の施設の情報共有を行い、これまで築いてきた関係を意識した支援を心掛けている。運営推進委員のご家族には、任期終了までOBとして委員の継続をお願いしたこともある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当制とし、本人の思いや意向、衣食住、他者との関わりの様子などを細かく観察し、日々の会話や表情、生活の様子から本人の思いや希望を把握するようにしている。「今日は部屋でゆっくりしたい。」「外に出出て少し歩きたい。」等、その日の気持ちを確認しながら対応している。言葉での表現が難しい方についても、表情や仕草から思いを汲み取れるよう職員間で情報共有を行っている。その他、生活歴や家族、他事業所からの情報や職員間の申し送り、ミーティングや24シート（個別処遇計画）を活用しながら、本人の望む暮らしが送れるよう努めている。	利用者一人ひとりのペースを支援方針の一つに掲げ、日常の行動や表情、過去の生活歴から要望や意向を汲み取っている。利用者の意向に沿い、畑仕事、床のモップ掛け、洗濯干し・たたみ、雑巾縫いなどのお手伝いのほか、趣味の編み物、塗り絵やトランプなど、本人の趣味嗜好に応じた支援をしている。和服の着付け、食事（サシミ）、外出（花見）、自宅や田畑の見守りなどの要望にも対応している。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、ご家族等や入居前の関係機関の方からの情報を収集し、生活歴の把握に努めている。好きだったことや昔の生活スタイルを日常の中に取り入れる事で、安心感につながるよう意識している。ご家族と話す機会がある時等も、その都度情報収集に努めケアへ反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の時間軸に対する生活リズムを観察し、本人の意向や好み、自分で出来る事、サポートの必要なことに分けて状態の把握に努めている。また、日々の体調や食事、水分摂取、睡眠状況などを記録し、職員間で共有して小さな変化にも気付けるよう観察を継続する事で、一人ひとりの状況に応じた支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やご家族の意向を聞きながら作成している。日々の生活の様子を観察しながら、ミーティング、申し送りなどで意見を出し合い検討している。担当職員、ケアマネジャー、看護師等、多職種でカンファレンスを実施し、24シートやケアプランに反映している。要介護認定の保険更新や見直しも随時行い、都度ご家族に説明し意向を伺い、同意を得ている。	介護計画は、職員参加のカンフレンスを行い、24シートや評価シートを活用し、居宅担当者を含めアセスメントとモニタリングをケアマネジャーが行い、計画内容を職員会議で再検討している。短期3ヵ月、中期6ヵ月とし、家族に内容を説明し、意見を伺い、了承を得ている。なお、計画変更も含め看護師の助言や指導も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24シートを活用し、それぞれ個別に記録を行っている。その他、健康管理表や業務日誌への記載、申し送りなどを行い、情報共有しケアの見直しや改善点に留意している。食事量や睡眠状況、会話の内容も確認しながら、その方の変化に気付けるよう努めている。記録をもとに一人ひとりに合った関りに繋げている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の体調や天気等の状況を見ながら、気分転換や活動量の増進も兼ねて活動している。外出や散歩、畑へ野菜の収穫、事業所の外で車座になり、お茶飲みする等している。急な家族の外出希望や来所、面会等にも柔軟に対応している。柔軟な支援が行えるよう多職種や関係機関との連携を図っている。急な受診等が入ることもあるが、その都度職員同士で相談しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町の地域介護相談員の訪問により、日頃の生活の様子について聞き取りを行ってもらっている。外出時も、時期や地域の状況を確認し、買い物に出かける等している。地域行事への参加や交流の機会を持つことで、社会とのつながりを感じながら生活できるよう支援している。必要な地域資源についても、情報収集を行いながら活用に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人やご家族の意向をお聞きし、今までのかかりつけ医を継続して受診していただいている。必要時は月単位でバイタル測定の経過や症状等を書面で渡している。必要に応じて、同行することもある。急な受診が必要で、家族が遠方に居る時などは、職員が受診の付き添いをしている。日頃の健康管理は、隣接施設の兼務看護師や嘱託医の協力を得ている。受診結果や体調の変化については医療機関と連携を図りながら、健康状態の把握や早期対応できるよう取り組んでいる。	入居前の医療機関受診は、家族同伴で6人、嘱託医による訪問診療は2人、非該当1人である。嘱託医による訪問は月2回あり、相談や指導を受けている。投薬は職員3人で確認（セット、配布、飲み込み）している。予防接種は、嘱託医が実施した。精神科（3人）、眼科1人、皮膚科1人の受診も家族同伴で実施した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	隣接施設の兼務看護師が、週に1回利用者と面談、職員からの情報収集を行い体調管理を行っている。その上で状態を伝え、援助に対するアドバイスや指示を受けている。体調不良時や急変時は、看護師への24時間の連絡体制が整っており、指示を受けながら医師への連絡や報告をしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時や急変時は、診察に同行する等している。病院の看護師やケースワーカー、医師と面談し、施設での様子を説明する。本人やご家族の意向をお伝えしている。入院時は介護、看護サマリー、生活歴や家族状況、食事、排泄、動作状況等について書面を作成し、情報提供している。退院時はご家族に同行して、入院時の治療状況や本人の様子の説明をいただき、退院後生活において注意が必要な事について指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	サービス開始時には終末期の指針を説明し、実際の場面では早めに家族と面談して希望や意向を伺い確認している。地域の医療機関や嘱託医、看護師や職員で話し合いを行う。ご家族に方向性について確認し、了承を得ている。重度化した時には都度連絡体制を強化し、多職種との連携を図り対応している。	重度化した場合のマニュアル、看取り指針はあるが、長い間（10年）、看取りの実績はない。入居後、食事が摂れず（1週間）、病院に入院した利用者がいた。職員には、特別養護老人ホームでの看取り経験者が1名いる。	看取り経験者等を講師として職員への研修を実施し、重度化した場合の対応や看取りへの必要な医療的知識も含めて習得し、より一層の体制の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	例年、外部研修に参加したり、内部研修を行なったりしている。急変時や事故発生時に慌てず対応できるよう書面にして見えるところに設置し、手順を確認している。職員手帳にも急変時、事故発生時の対応マニュアルを明記しており、職員会議の勉強会等で周知している。利用者の日頃の体調観察にも注意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の火災時（夜間想定）の消防訓練や、災害時の防災訓練を隣接の特別養護老人ホームと合同で行っている。消防職員が来所し、指導訓練を受ける等している。救命救急(心マッサージ、AED)の講習もある。災害時や火災が発生した時は,隣接の特別養護老人ホームと協力体制を取る事としている。避難時に介助が必要な方についても確認を行い非常時に落ち着いて行動できるように努めている。地域の方に「駆け付け協力隊」の依頼もしている。備蓄品については定期的に点検を行い、停電時や断水時にも対応できるよう準備している。	夜間想定訓練を5月、隣接の特別養護老人ホームと合同で実施した。10月に総合訓練を消防署員隊立会いで実施の予定である。ハザードマップでの地域指定は無いが、豪雨等への対応の助言があり、検討している。食材は3日分備蓄し、反射式ストーブ、ガスコンロを整備している。	夜間時を含め災害発生時には、職員のみでは対応が難しいため、地域の皆さんとの顔の見える関係を継続し、率直なアドバイスをいただき、取り入れて行かれるよう期待します。

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の希望や意向を確認し、日々の生活の様子を観察しながらその方に沿った支援を心掛けている。排泄援助の際は特に羞恥心に配慮した声がけを行っている。また耳が遠い方への声がけは驚かせないように隣に座り肩を軽くたたくなどし、声を掛ける際の声の大きさや掛け方等にも気を付けている。利用者の名前を呼ぶ時は「さん」を付け、居室に入る時はノックをし断りを入れて入っている。職員会議等でも注意喚起している。	個人情報は、個別にファイルし保管している。バイタルチェック等の情報は、独自システムのパソコンで管理している。利用者の氏名の記入された資料はシュレッダーで処分している。失禁等の場合は、利用者の心情を大切に、それとなく誘導し、居室、トイレ等で処置している。居室入室の際は、ノック、声賭けをしている。居室への氏名表示は、家族の要望により1名掲げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	居室担当制とし、担当職員が率先し家族と連携を取りながら本人とのコミュニケーションを図り、話しやすく分かりやすい言葉掛けを行い信頼してもらえるように関係性を築いている。また本人が選べるように声がけを行い職員が決めてしまわないように意識し、言葉での表現が難しい場合は表情や反応などを観察し気持ちを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人がどのように暮らしたいかを聞きながら、職員で話し合っている。アセスメント、24シートの見直しにより情報共有し、一人ひとりの生活ペースで暮らせるよう配慮している。本人の体調や他者との関わりを観察しながら無理なく過ごしていただけるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人やご家族の意向を聞きながら相談し、化粧などの身だしなみや服を選んでもらうなどしている。毎月理髪の希望を取り、髪を切ってもらうなどしている。本人希望で毎月理髪を行う利用者もいる。		

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	完全調理品の日々の献立の他に、施設の前にある畑から採れた野菜などを調理に加えて提供している。また食べたいもののリクエストがある場合は一緒に買い物に行き、調理を職員と一緒に行ったり、外食の機会を取り入れ喜んでいただけるよう努めている。山菜の処理や畑の野菜の処理等を職員と利用者で共に行い、季節感を持っていただけるよう努めている。	ご飯と味噌汁は職員が調理し、おかずは業者が作成した月ごとのメニューから冷凍食品を選択し提供している。利用者の要望により、具の多い味噌汁としている。利用者のリクエストによる食品のほか、家族からの差し入れ野菜、果物、菜園の野菜を活用している。利用者の皮むき、盛り付け、茶碗ふきの手伝いを得ている。誕生日にはケーキやプリンを提供しているほか、敬老会では、家族と一緒に食事をしている。季節により、山菜、うなぎ、恵方巻、ひっつみ、サツマイモ汁、職員提案で、鉄板やきそば、スイカ割りを実施した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量は毎食観察し記録に残している。食事や水分量は利用者の状態や体調に応じた提供を行っている。また好みに応じて代替品などを家族の協力を得て購入し提供している。必要に応じて栄養士や看護師に連絡、相談し助言を受けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の習慣や能力に応じて歯磨きやうがい、義歯の洗浄などの声がけや見守りなどでの援助を行っている。年に2回、歯科医、歯科衛生士の訪問があり、研修と検診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	できるだけ自力で行えるよう環境の整備に努めている。個々の排泄状況を観察し、動作状況を確認したうえでどのような支援が必要かをその都度職員間で話し合い、共有している。パットやリハビリパンツの使用はあるが、自力での自然排泄を基本とし、綿パンツへの移行や、排泄チェック表にて排泄状況を把握している。時間の間隔を見ながら、他の利用者に聞こえないように声がけを行い誘導も行なっている。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導介助に配慮しており、利用者の様子を見てトイレに誘導している。自立者は3人、布パンツ4人（うち2人パット併用）、リハビリパンツにパッド併用5人（うち夜間大型使用2人）である。ポータブルトイレ利用は1人である。夜間は大容量パッドに交換し、安眠と漏れ防止の工夫をしている。半数程度が離床センサーを使用している。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や水分摂取量、日中の活動状況を記録に残し申し送りをする事で職員間で共有している。利用者の状態により、食事を食べ易い大きさにカットし、こまめに水分を摂っていただけるよう、声がけやストローを使う、持ちやすいコップを用意するなど努めている。排泄状況の把握により早めに対応し、排泄支援を行っている。便秘症の予防方法などについては勉強会を行うなどして知識の習得に努めている。必要に応じて栄養士や看護師に相談し、指示や助言を求めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	毎日入りたい、寝る前に入りたい等の希望はあるが、応対する事が難しい事もあり、できるだけその日の体調や気分、好み、希望に沿うように支援している。援助に入る職員は、男性か女性かの希望をお聞きし、できる範囲で対応している。あまり入浴が好きでない方もおり、言葉掛けや誘導の仕方、プライバシーに配慮しながら対応している。概ね週に3回程の入浴でその日の午前と午後2回の機会を設けており、どちらの時間帯が良いか希望をお聞きし入っていただいている。	原則週3回の入浴とし、必ず2回は確保している。毎日の入浴は可能で、全員が機械浴使用で、車椅子対応は2人、利用者ごとに湯を入れ替えている。季節にはゆず湯を提供している。皮膚が弱い方へはローション（アロエクリーム）、水虫には薬を塗布している。入浴時は、歌や昔話などで和み、職員とのコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活歴や習慣、病歴、その都度体調を考慮し、本人の生活リズムに合わせて安心して休める環境づくりを作っている。本人やご家族の意向に応じて、必要な方は馴染みの物を置くなどし不安軽減に繋げている。また夜間の睡眠状況なども申し送りで共有している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	用法、用量について24シートに記載、ミーテイングでも申し送りし理解、把握するように努めている。1日分の薬は個々の名前と薬の数を明記し、前日にセットし2人以上で確認している。翌日の早番も確認し、間違いのないように重複確認している。普段の様子観察やバイタル測定の結果から、症状の変化には気を配っている。処方が変わった時も、申し送りや連絡帳に記載、看護師にも報告している。その後の様子の変化には十分気を付けるようにしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や職業、趣味などの情報と普段の生活の様子から、好みや得意、不得意を把握し、その日の気分や希望に沿って自由意思で活動に参加できるものとしている。得意分野では、他利用者の衣類の繕いやふきん縫いなどをやっていただいている。好きな事や楽しみを持って過ごせるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外食や地域の観光施設に見学、季節に合わせてお花見や紅葉ドライブ等の支援を行っている。演歌歌手ファンの利用者がおり、コンサートへ出かけたこともあった。畑に実った野菜の収穫なども一緒に行っており、天候を見ながら施設周りの散歩などを実施している。また日常的には天候やその日の体調を見ながら、買い物やお散歩、ドライブなどを行っている。	天気の良い日は、施設の周辺を散歩している。日向ぼっこ、お茶会の実施のほか、菜園の草取りや収穫を行っている。少数人数のドライブは、花見、花きセンター、夏油高原の紅葉狩り、近くのダムに出かけるなど、四季の変化を楽しんでいる。買物、初詣、演歌歌手のコンサートにも家族と出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出時に好きなものや欲しいものを自分で選んでもらい、本人の購入したい物や必要なものは預り金にて購入し、好きなお菓子などは職員と一緒に選び購入している。金銭のやり取りに関しては、職員が援助する事で、買い物することの楽しみ等に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話や手紙のやり取りが行えるように対応し、電話を取り次ぐなどして、ご家族が遠方の方にも連絡して会話できるようにしている。「連絡が取れて安心した」と話す様子も見られている。ぽっかだよりへの短文のメッセージや年賀状を書いてもらい、出すなどの支援を行っている。また、キーパーソンより携帯を渡す時間帯の制限は有るが、携帯電話を所持している利用者が数人おり、メールや通話を自由に行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール兼居間からは外の様子が眺められ、天気の様子や畑など、四季の様子が分かる。また共有スペースは季節の花を飾り、四季を楽しんで貰えるように工夫している。毎日掃除をし、清潔を保持してトイレの臭いなど不快にならないように気を付けている。室温についても、それぞれの希望をお聞きしながら配慮している。ソファや談話室を自由に利用でき、移動が安全にできるように動線にも気を付けている。	広々としたロビーは、天窓、大型の引き戸により光が入り、明るく、清潔感がある。食用テーブル、ソファーがあり、テレビの視聴やゲーム、歌、体操など、それぞれの場所でくつろいでいる。温度は大型のエアコン、ガスヒーター、扇風機、空気清浄機、加湿器で適切に管理されている。季節の切花で飾られている。また、正月、ミズキダンゴ、ひな祭り、七夕など、節句ごとの飾りが配置される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者それぞれに落ち着ける場所が持てるように席を配置する工夫をしている。こだわりのある利用者には本人の席を決めているが、基本はどこに座っていただいても良い事にしている。また、気の合う方同士の席を隣同士にするなどしている。気兼ねなく過ごせるように、ソファや談話室で自由に過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人、ご家族の意向をお聞きしながら馴染みの物、写真立て、TV、座卓、ハンガーラック、飾りつけ等を家族に協力して貰い持参して貰っている。枕や寝具類全般を持ち込みしている利用者も数名おり、スペース的に限界があるが、できる範囲で対応している。	温度は、エアコン、ガスヒーターで管理されている。ベッド、イス、クローゼット、洗面所が設置されいる。持ち込みの品物は、テレビ、ラジオ、時計、衣装ケース、箪笥、家族写真、ぬいぐるみ、造花、カレンダー、位牌などである。利用者の意向に沿った配置となっている。ドアの脇に引き戸（小窓）がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有スペースや居室内の安全面へ配慮しながら環境整備を行っている。トイレ表示や時計配置など工夫し、自分で出来る事は本人に行っていただけるように分かりやすい環境づくりを心掛けている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］